

厄介な動物を駆除する魚



△
ナマコの水槽で厄介な動物のイソギンチャクを食べるカゴカキダイ(水槽番号219号)

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

13

山本 泰司

白浜水族館の第2水槽室には、水量1ト弱の水槽が計20個並ぶコーナーがある。ここでは無脊椎

小魚の正体は、カゴカキダイやソウシハギ、カワハギなどの幼魚で、実はわたしたち飼育員の強力な助っ人として活躍してもらっているのだ。

これらの水槽では、さまざまな動物が自然に繁殖する。中でもチグレイ

ホソウミケムシは砂の中であまり延び、見た目も悪い。その上、イソギンチャクは刺胞で、ニホンウミケムシは剛毛で展示動物を刺し、それらの行動範囲を狭めたり、餌を横取りしたりする。これら厄介な動物を駆

をせつせと食べ、完ぺきに駆除はできないものの、目立たない程度に増殖を抑えてくれる。ただし成長すると、狭い水槽で目立ち過ぎたり、働きが悪くなったり、本来の展示動物までつつき始めたりするため、毎年夏前に数ヶ月程度の幼魚と交換するようになっている。年によって集められる種類や数がまちまちなので、助っ人の顔ぶ

飼育員の強力助っ人

(むせきつ)動物を展示し、魚は展示しないことになっている。ところが、あちらこちらの水槽で小魚の姿が見られる。

ソギンチャクやセイタカイソギンチャク、ヒメイソギンチャクなどの小・中型のイソギンチャク類と、ニホンウミケムシというゴカイの一種は厄介な動物だ。どの種も分裂して急激に増える。イソギンチャク類は水槽の壁面で、ニ

除するため、以前は展示動物をいったん取り出し、水槽に淡水を張ったり、小まめにブラシなどでこそぎ落としたり、底砂を洗浄したりしていた。しかし、助っ人を導入してからは飼育員の労力は大幅に軽減された。小魚たちは、厄介な動物

れや数も変わる。魚以外にもウミウシの仲間やミヅクロウ、巻貝のヒスガイがイソギンチャクをよく食べる。今後とも簡単に手に入る助っ人を探し出し、楽をさせてもらいたいものだ。(京都大学技術職員)